



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

かへらざる三年を

学校長 豊島 真臣

平成二十八年度がスタートしました。昨年度を振り返り、その反省を踏まえ、本年度がどうあるべきかをしっかりと考え充実に一年にしていきたいと思います。

先日の始業式や入学式で、本校で高校生を送るにあたり、心がけてほしいことを今年も三つ述べました。「自ら求めて学ぶ態度を身に付けてほしい」、「高い目標に立ち向かう勇気を持ってほしい」、「正しい規範意識を持ってほしい」の三つです。このことは社会人になっても大切なことです。

学園というのは自分で考えなければ身につきません。そのためには勉強に対する大いなる好奇心が大切で、簡単に答えを見たり聞いたりするのは、自分で徹底的に考えるのです。このことが、前述の三つの事につながると思っています。

さて、先日の入学式において、例年通り校歌が紹介されました。今年度は校歌が誕生する歴史の紹介もあり、美しい歌声に、新入生・保護者から大きな拍手をいただきました。紹介してくれた生徒達に心から感謝します。

生徒たちは校歌を、親しみを込めて「はろばろ」と呼んでいます。作詞は中馬幸子先生、作曲は郡山正先生、お二人も当時の鶴丸高校の先生方です。記録によると、校歌は「土ふかく炎をのむ桜島」をうたい、学ぶ者の風姿を彫み、伝統と未来の栄光をたたえ、一体に本校の生徒と校風がよく描いてあった。とあります。一番に「激しい情熱を胸に秘めながらも静かな桜島の威容に日常の姿勢」を見、二番で「好学愛知の本校の伝統」を、三番で「敬天愛人の精神を示して人のために尽くす鶴丸生の使命と未来の栄光」をたたえるというふうに、荘厳な調べとともに鶴丸の気品、伝統、展望が万葉風の五七調の中に込められた素晴らしい校歌です。

本校は今年度創立百二十二年です。生徒の皆さんは自覚をもって「鶴丸」の歴史と

伝統を引き継いでいかなければなりません。本校には文武一道の精神が受け継がれています。本校は普通科進学校であり、生徒の皆さんは高い目標に向かって日々努力しています。勉強一辺倒でないことが伝統であり、誇りでもあります。部活動の入部率も九〇%近くあり、九州大会や全国大会への出場や県大会で上位入賞を果たしていることは立派です。

学校の中庭には「博咲く学風ここに酔乎たり」という句碑があります。先輩方はこの酔乎たる学風を継承し、鶴丸の歴史を刻んでこられました。生徒のみならずには、この学風を受け継ぎ、希望や目標を大きく持つて勉学に励み、心豊かに人のことを思いやり、社会の発展に貢献できる人間として成長してほしいと願っています。

本年度が皆さんにとって充実した一年となることを祈ります。

左は対面式の様子。昭和二十五年、この場で「鶴丸は勉強するところである」の名言が生まれました。



はろばろと生きよ

第一学年主任 大倉 秀心

鶴丸高校第七十期生の入学式は、あじの雨模様となったが、程良い緊張感とともに保護者と校門をくぐる新入生を見て、一学年を新たに預かる者として、身の引き締まる思いがした。

今年度の新入生三二〇名、そして学年を担当する職員たちは幸せである。入学式の校歌紹介が、ただ校歌を聴かせるだけでなく、どのように校歌が作られ、またどんな思いが込められているのかまでが合唱部によって紹介され、高校生活初日にして校歌の意味を深く理解できたからである。入学式の最後をこんな風に演出してくれた先輩たちに心から感謝したい。

私はこの学校で三回続けて三年の担任をしたことがある。そのときはいつも書道部に校歌の歌詞を大きく書かせ、教室の後ろの壁に貼らせていた。校歌を理解し、その内容を一人一人が具現化することが、この学校の生徒であったことの証となる、という思いを込めていた。日々、教室の後方から校歌を見守られていること、どの生徒も鶴丸生になることとはどんなことなのかを考えてほしい。新入生に對しても、同じ思いを抱いている。

校歌「はろばろ」は不思議な力を持つた校歌である。泰然と佇む桜島のごとく多量のことで動かない強さを持ち、簡単に到達できない高い理想を実現するために学び続け、そして人を愛して他人のために尽くす「For Others」の精神を忘れない、そんな人物像が、朗々とした伸びやかなメロディーにのせて歌われている素晴らしい校歌だ。高校生としてばかりでなく、人間としてのあり方までが歌われている。鶴丸卒業生がいつまでも愛してやまない訳がここにあるのではないかと思う。大人になってもこの校歌のような生き方ができているだろうか。歌が歌い続けられているのかもしれない。新入生諸君が三年後、どんな思いでこの校歌を歌い卒業していくのか、これからどんな姿勢で高校生活を送るのかによって大きく変わってくるだろう。私は三月、進路指導主任として合格者集合時に新入生諸君に、「高い目標を持ち、自分の可能性に賭けてほしい」という

春の青空の下、恒例の甲鶴戦が行われました。

たくさんのご声援、ありがとうございました。



春の青空の下、恒例の甲鶴戦が行われました。たくさんのご声援、ありがとうございました。

フライドのぶっかり合い

第四十六回 甲鶴戦

四月十五日、四十六回を数える甲鶴戦と甲南・鶴丸スポーツ交歓会が開催された。昨年と同じく鴨池運動公園補助競技場に両校の全校生徒が集合し、応援団のエネルギー交換と演舞から戦いが始まった。

「ストップ五連敗」を合言葉に、応援団・生徒会が牽引してきた鶴丸高校。各会場でも、選手はもちろんのこと、応援の生徒たちも声を漕り上げて雰囲気盛り上げる。午前中の競技を終えて、県立球場には野球の全校応援に生徒たちが駆けつけてきた。三回表に入る頃には、ほぼ全生徒、全職員がスタンドに結集。一丸となつて声援を送る。



ためしに、甲南高校のスタンドに行ってみた。鶴丸高校側のスタンドはどう映っているのか。外野のスタンドに響く「蒼天翔ける」。こんなに響く歌声は久しく聞いたことがなかった。応援は、甲南に負けてはいない。

試合結果は、残念ながら五勝十二敗。互いのプライドをかけた熱い一日は、ライバルの健闘を讃え合つて幕を閉じた。

十七歳の君へのメッセージ

創立記念講演会

創立百二十二年を迎えた四月十九日、本講体育館で記念式典および記念講演会が行われた。

記念講演会では、本校二十九回生の吉田憲一郎氏(ソニー株式会社取締役代表執行役副社長兼CFO)が、「人生における選択は七歳の君へ」と題して講演された。講演の最後には「真剣に人生の選択をしてほしい。チャレンジすること、謙虚に学び続けること、感謝することを忘れず、メッセージを残された。



七歳の君へ」と題して講演された。講演の最後には「真剣に人生の選択をしてほしい。チャレンジすること、謙虚に学び続けること、感謝することを忘れず、メッセージを残された。

5月の行事予定

日	行事	休業	備考
1	㊤	×	
2	月 学年朝会	○	
3	㊤ 憲法記念日	×	
4	㊤ みどりの日	×	教員相互授業参観期間
5	㊤ こどもの日	×	
6	金	○	
7	㊤	×	
8	㊤	×	
9	月 45分6限授業 立会演説会・生徒総会(7限)	○	
10	火	○	
11	水	○	
12	木 実力考査(1日目) PTA総会	×	
13	金 実力考査(2日目)	○	
14	㊤	×	
15	㊤	×	
16	月 全校朝会 集団読書(3年) スクールカウンセリング	○	
17	火	○	
18	水 1年クレーリン検査	○	
19	木 PTA総会欠席者会	○	
20	金 避難訓練 40分7限授業	○	教
21	㊤	×	育
22	㊤	×	実
23	月 全校朝会 集団読書(2年)	○	習
24	火	○	
25	水	○	
26	木	○	
27	金 中掃除	○	
28	㊤ 2・3年駿台模試	×	
29	㊤	×	
30	月 学年朝会 中間考査時間割発表 集団読書(1年) SC	○	
31	火	○	